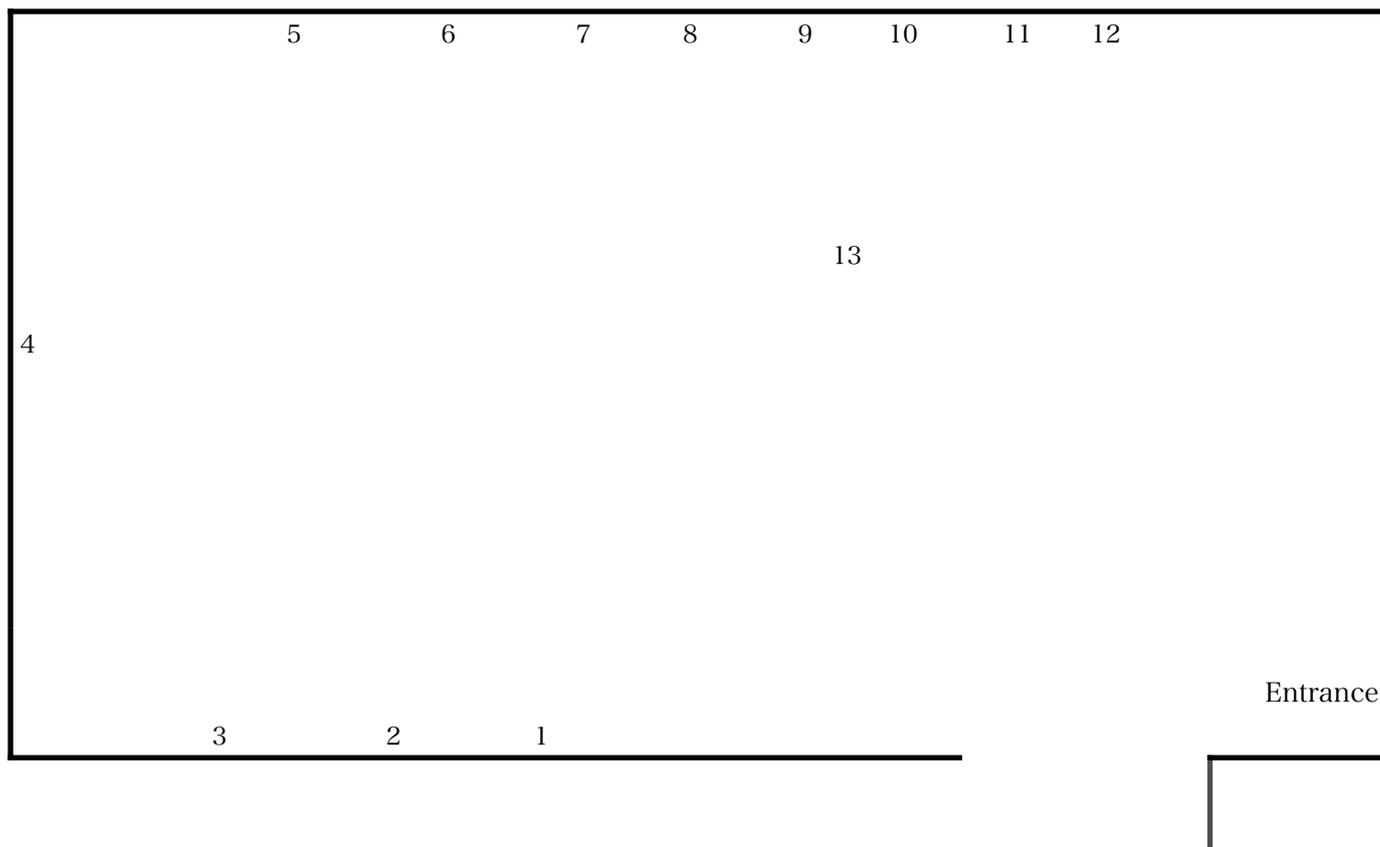


平田星司展「線の手触り 崩れゆく風景」2021.12.12(sun) - 12.25(sat)



No	作品No	作品名	制作年	サイズ	素材/技法	価格(税抜)	価格(税込)
Even Drawing							
1	2114-01	Chamber I	2021	220×333	紙にシャープペンシルの芯 鉛筆 ペン シャープペンシル	¥100,000	¥110,000
2	2114-02	Chamber II	2021	220×333	紙にシャープペンシルの芯 鉛筆 ペン シャープペンシル	¥100,000	¥110,000
3	2114-03	Chamber III	2021	220×333	紙にシャープペンシルの芯 鉛筆 ペン シャープペンシル	¥100,000	¥110,000
4	2114-04	化体説IV	2015-21	330×420×210	オブジェに赤ワイン ウイスキー 顔料 ビニルエマルジョン	¥250,000	¥275,000
5	2114-05	didon-横になる	2021	156×226	紙にシャープペンシルの芯 鉛筆 ペン シャープペンシル	¥100,000	¥110,000
6	2114-06	bula-bula-よって跳ねる	2021	156×226	紙にシャープペンシルの芯 鉛筆 ペン シャープペンシル	¥100,000	¥110,000
7	2114-07	mata-mata-沢山のこと	2021	156×226	紙にシャープペンシルの芯 鉛筆 ペン シャープペンシル	¥100,000	¥110,000
8	2114-08	bosi-bosi-別の東	2021	156×226	紙にシャープペンシルの芯 鉛筆 ペン シャープペンシル	¥100,000	¥110,000
9	2114-09	tuu-tuu-揺るぎない真実	2021	156×226	紙にシャープペンシルの芯 鉛筆 ペン シャープペンシル	¥100,000	¥110,000
10	2114-10	tembla-tembla-震え	2021	156×226	紙にシャープペンシルの芯 鉛筆 ペン シャープペンシル	¥100,000	¥110,000
11	2114-11	laas-laas-ついには	2021	156×226	紙にシャープペンシルの芯 鉛筆 ペン シャープペンシル	¥100,000	¥110,000
12	2114-12	schein-見せかけ	2008	148×210	紙にシャープペンシルの芯 鉛筆 ペン シャープペンシル	¥100,000	¥110,000
13	2114-13	松葉杖とシューキーパー/支えなしでは	2021	920×620×180	松葉杖とシューキーパー	¥280,000	¥308,000



平田星司 HIRATA seiji

- 1967 東京都生まれ
1994 ブライトン大学絵画科 卒業 首席
1996 ロンドン大学スレード美術校修士課程絵画科 修了

[主な個展]

- 2021 「線の手触り 崩れゆく風景」 galerieH/東京
2020 「バロック的な庭師」 galerieH/東京
2019 「One Shot Measure and Other Objects」 galerieH/東京
2018 「Root」 galerieH/東京
2017 「イソモルフ ISOMORPH」 POST Gallery 4GATS/東京
2015 「化体説-静物による」 ギャラリー現/東京
2013 「Unbound : Possibilities in Painting」 現代ハイツ・ギャラリー-DEN & .St/東京
「Still Life & Natura Morta」 GALERIE SOL/東京
2012 「ルクレティウス」 藍画廊/東京
2011 「Various Skills vol.3」 トキ・アートスペース/東京
2010 「干満な反復」 現代ハイツ・ギャラリー-DEN/東京
2009 「reawake」 ギャラリー現/東京
2008 「界面」 藍画廊/東京
2007 「赤と黒」 GALERIE SOL/東京
2006 「静かな広場」 GALERIE SOL/東京
2005 「シンポジウム」 ギャラリー森/三浦市 神奈川
2004 「その手の話」 藍画廊/東京
2003 「紙の家 The House of Cards」 新宿区立区民ギャラリー/東京
2002 「残されるもの/Leftovers」 藍画廊/東京
2001 「1つの部屋に、1つの絵画。」 藍画廊/東京
2000 「マイナスの絵画」 藍画廊/東京

[主なグループ展]

- 2018 「はらかな時のすきまで-ephemeral / eternal」 旧田中家住宅/埼玉
「皮膚の形相-Phases on Surface」 宇フォーラム美術館/東京
2017 「海のプロセス-言葉をめぐる地図 (アトラス)」 第6回 都美セレクショングループ展
東京都美術館/東京
2015 「エスティック・ライフ-オートマチック」 トキ・アートスペース/東京
「メランコリア」 アートスペース煌翔/東京
「See Side by Side・倉重光則 平田星司」 ギャラリー箱/荒井浜 三浦市
2012 「9 expressions」 現代ハイツ・ギャラリー-DEN/東京
2010 「エスティック/ライフ」 中根秀夫 平田星司展 トキ・アートスペース/東京
2000 「海のプロセスとホームセンター」 田口博康 平田星司展 練馬区立美術館区民ギャラリー/東京
2009 「空間の身振り」 アートプログラム青梅/東京
1995 「South Bank Photo Show "Home Truth"」 Royal Festival Hall/London *prize winner

[その他]

- 2013 2013 香港 M+ 企画 「Inflation!」 展でWai Ping Tamの制作コーディネーターをする



<http://bit.ly/2UGM1iX>
Artist Page_平田星司



<https://bit.ly/3dKzyqA>
Online Store_平田星司

同じ場所を巡って

「Even Drawing」の最初の作品は2008年に制作した。描かれたシーソーの上にシャープペンシルの芯が錘としてのっている作品でその年のある小品展で発表した。その時作品は売れたが、今年の初夏にある事情から再び手元に戻ってきたのでしばらくそのまま壁にかけておくことにした。コロナ禍も続いて夏の間も町は静かだった。時折見るとシーソーの傾く錆びた音が聞こえるような気がした。作品はオブジェでありメディウムでもある芯とそれを含んで描かれたイメージが紙の表面で作用しあうもので、整然と並んだ芯は見る角度により鋭い反射光を放ち紙の内と外の無効を表明する。今回改めてこの小さな作品が何か巨大なものの鏡のように思えた。それもまた仮象に過ぎないとしても、動きだすきっかけにはなる。

午後は川沿いの歩道を歩いた。散歩というよりは必要に迫られて歩いていた。町は東京湾へ注ぐ二つの川を挟む低地帯にある。一方の緩やかに蛇行する川沿いの歩道は狭く、途中から高さ3メートルほどのコンクリートの堤防が1キロほど続く。その間視界は川から遮られている。夏の日差しは白い壁面を照りつけ、その上に歩道脇の木々の黒い影が分身のように揺らめいていた。壁面の向こう側の水の気配を体を感じながら、加えて歩道と木々からなるパースペクティブの中を歩き続けた。やがて浮上するように緩やかな上り坂になり視界は一挙に開ける。大きくカーブした川の全貌が表れる。どこかで魚が跳ねる音が聞こえ、目をやると水面だけがざざめいている。

2021年12月

平田星司

* 画中の文字について

シーソーの語源は各国様々だが、反復的な動きや作用面から共通して、Seesaw, Teeter-totterなどは単語や音節の一部を重複する畳語（日本語だと「色々」「数々」「苛々」等）のプロセスが由来だという説もある。畳語は母語の異なる商人の間で自然に発達し、その地に定着した言語であるクレオール語にもみられる。作品のなかの言葉は、畳語を調べているうちに偶然みつけた、カリブ海周辺の国々のクレオール語だが、現在でも使われているのかは分からない。

<https://seijihirata.tumblr.com>